

めぐみイエス・キリスト教会

2020年11月15日(日)第三主日礼拝
週報「通算第532号」



2020年標題聖句

第I テサロニケ5章16節～18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌258「墨よりも黒き心なれど」	p. 402
【交読文】	No.1詩篇第1篇	p. 879
【賛美Ⅱ】	新聖歌439「険しき山道か」	p. 710
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル賛美No.13「主をほめたたえ続けよ」	
【聖書朗読】	使徒の働き7章16節～36節(2017新約p. 245上段)	
【礼拝説教】	《ステパノの弁明そのⅡ(モーセ)》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

●ポイント1.「幼子を生かしておかないようにした」とは？

※出エジプト記1章22節「新たな王朝・ファラオの命令」(旧約p.100上段)

1:22 ファラオは自分のすべての民に次のように命じた。「生まれた男の子はみな、ナイル川に投げ込まなければならない。女の子はみな、生かしておかななければならない。」

※マタイの福音書2章13節～16節「ヘロデ大王の命令」(新約p.3上段)

2:13 彼らが帰って行くと、見よ、主の使いが夢でヨセフに現れて言った。「立って幼子とその母を連れてエジプトへ逃げなさい。そして、私が知らせるまで、そこにいなさい。ヘロデがこの幼子を捜し出して殺そうとしています。」

2:14 そこでヨセフは立って、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトに逃れ、

2:15 ヘロデが死ぬまでそこにいた。これは、主が預言者を通して、「私は、エジプトから私の子を呼び出した」と語られたことが成就するためであった。

2:16 ヘロデは、博士たちに欺かれたことが分かると激しく怒った。そして人を遣わし、博士たちから詳しく聞いていた時期に基づいて、ベツレヘムとその周辺一帯の二歳以下の男の子をみな殺させた。

●ポイント2.「彼らは理解しませんでした」とは？

※出エジプト記2章14節 「モーセの場合は」 (旧約p.101上段)

2:14 彼は言った。「誰がおまえを、指導者や裁き人として私たちの上に任命したのか。おまえは、あのエジプト人を殺したように、私も殺そうというのか。」そこでモーセは恐れて、きっとあの事が知られたのだと思った。

※マルコの福音書6章2節～3節「主イエスの場合は」 (新約p.76上段)

6:2 安息日になって、イエスは会堂で教え始められた。それを聞いた多くの人々は驚いて言った。「この人は、こういうことをどこから得たのだろうか。この人に与えられた知恵や、その手で行われるこのような力あるわざは、いったい何なのだろう。」

6:3 この人は大工ではないか。マリアの子で、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄ではないか。その妹たちも、ここで私たちと一緒にいるではないか。」こうして彼らはイエスにつまずいた。

●ポイント3.「不思議なわざとしるしを行ないました」とは？

※出エジプト記4章21節「主なる神のモーセへの言葉」 (旧約p.105上段)

4:21 主はモーセに言われた。「あなたがエジプトに帰ったら、私があなたの手に授けたすべての不思議を心に留め、それをファラオの前で行え。しかし、私が彼の心を頑なにするので、彼は民を去らせない。」

※使徒の働き2章22節「シモン・ペテロの説教から」 (新約p.111上段)

2:22 「イスラエルの皆さん、これらの言葉を聞いて下さい。神はナザレ人イエスによって、あなたがたの間で力あるわざと不思議としるしを行い、それによって、あなたがたにこの方を証しされました。それは、あなたがた自身がご承知のことです。」

◎先週のメッセージの概要【ステパノの弁明そのⅠ】

《「そのとおりなのか」大祭司カヤパは詰問します。ステパノによる告別説教が始まります。それにしても、使徒の働きに、ステパノのメッセージが詳細に記録されていることには驚きです。ステパノはこのすぐ後に、殉教しますから、彼が語ったメッセージの全貌を本人から聞き出すことは不可能です。そうしますと、この議会に同席した者が存在したことになります。

ルカは、ローマにおいて使徒パウロの監修のもとに「福音書」と続編である「使徒の働き」を執筆しましたから、サウロがその場に同席したことは、間違いないことです。またサウロはステパノの死刑に同意していたことから、直にステパノのメッセージを、その耳で聞いたことは確実です。

「兄弟ならびに父である皆さん」ステパノはまず始めに、ユダヤ人の父アブラハムについて言及します。主なる神様は、アブラハムと契約を結び、そのしるしこそが「割礼」なのです。創世記にはこう書かれています。『「次のことがあなたがたが守るべき私の契約である。あなたがたの中のすべての男子は、あなたがたの包皮の肉を切り捨て、割礼を受けなさい。それが、契約のしるしである。あなたがたの中の男子はみな、代々にわたり、生まれて八日目に、割礼を受けなければならない。』と。幼子であった主イエスもエルサレムにおいて八日目に割礼を受けられました。

次にステパノは、ヤコブの十一番目の息子ヨセフのことについて言及します。兄たちは、ヨセフをねたんでエジプトに売り飛ばしたのです。このヨセフも、救い主のひな形、あるいは予表であると言われていています。

ステパノは、イスラエルの歴史を辿ると共に、主イエスこそが、旧約聖書において、父なる神様が約束されたメシアであることを順を追って、議会に集っている指導者たちに解き明かしています。ステパノがここに召し出された理由は、後の使徒サウロの救いの為、またその師ガマリエルの為、そしてその場に集まった多くの宗教指導者たちの為なのです。後に信仰に導かれた者も、その中に存在することは、間違いないことです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は11月22日(日)教会において行ないます。聖書勉強会と祈り会は、年末まで毎週水曜日に各家庭において行ないます。